

ジュニアメンバーの皆さん今日は！

夏休みが始まりましたね。身近にある川や池や海や田んぼなどの水の中には、たくさん生き物が住んでいます。魚やカエル等の大きな生き物とは別に、川や池の水を透明な容器にすくって眼で見ると、小さな粒みたいなものが動いているのが見えます。それらは、小さな生き物で、プランクトンと言います。プランクトンは、ミジンコ等の「動物プランクトン」と、ケイソウ等の「植物プランクトン」に分かれ、生き物のエサになったり、植物プランクトンは光を受けて酸素を作って、私たちが生きていくための食べ物や地球環境を保つのに大きな役割を果たしています。

ミジンコの多くは大きさが 0.5mm～2mm くらいで、虫メガネや光学顕微鏡で拡大して観察すると、身体が透けて見えて、眼や心臓や腸の中の食べ物や卵まで全てみることができます。

図 1 は、ミジンコの全体像で、卵を抱えた大人(上)と子供(下)のミジンコです。図 2 は、卵をたくさん抱えたミジンコで、卵は二日ほどで身体の中で子供になってから、お母さんの身体の中から出てきます。図 3 は、ミジンコの頭の部分の拡大像で、複眼や目の下にある白い脳や腸が見られます。図 4 は、ミジンコの腹側正面から観察した像で、一つ目の妖怪みたいです。

このように身近にいる小さな生き物を拡大して観察することで、今まで見たことが無い新しい世界が広がります。ぜひ観察にチャレンジしてみてください。

(文責:川崎医科大学 田中 亨)

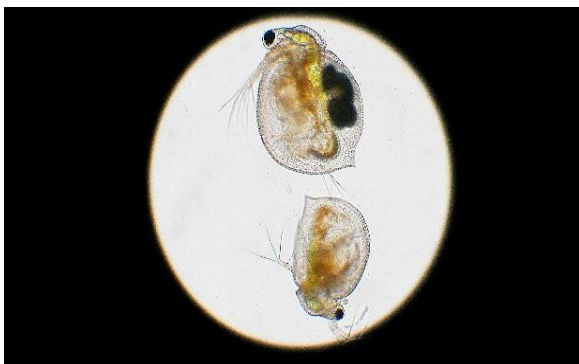


図 1 ミジンコの大人と子供(5x 対物)

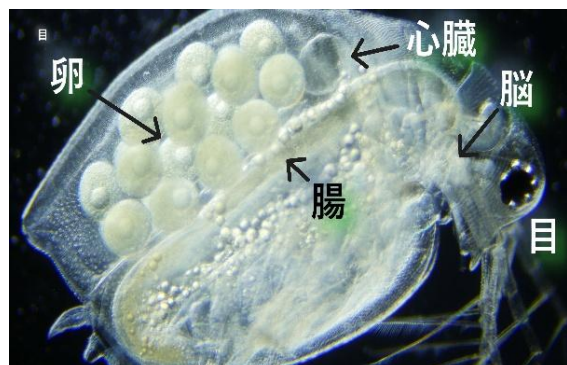


図2 卵を抱いたミジンコ(10x 対物)

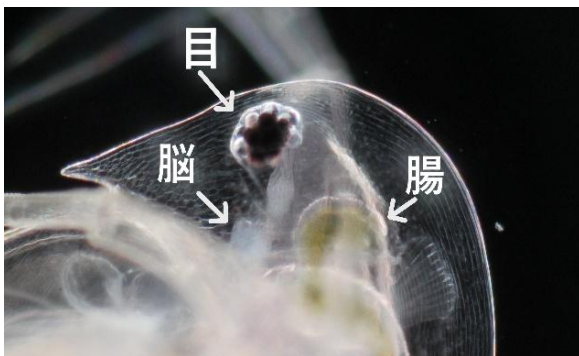


図 3 ミジンコの頭の部分(20x 対物)



図 4 ミジンコの腹側正面(5x 対物)